

記者懇談会の記録

日 時	令和 8 年 7 月 27 日（月）16：28～16：40
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-1・3-2
記者数	5 人

1 岩見沢市DX推進計画（基本計画）案について

（市長）

DX 推進計画の基本計画（案）について、ご説明させていただきたいと思います。

当市がこれまで推進してきました「スマート農業」や「健康経営都市」といった実績を最大限に活かし、市民や企業、大学などと連携しながら、デジタル技術で組織とサービスを最適化する DX によって、地域の価値、あるいは、地域の持続可能性を高めてまいりたいと考えております。

本計画は、2 年をかけて策定を進めております。今回は先行して「基本計画（案）」を取りまとめました。

さらに、個別の具体的な施策や事業を示す「実施計画・アクションプラン」については、本年度より策定に着手しております。

これら 2 つの計画、基本計画と実施計画を合わせて、岩見沢市の「DX 推進計画」となります。

この計画では、DX を単なるツールの導入ではなく、「市民一人ひとりの幸せを支える基盤」と定義し、基本理念は、「くらしと産業をささえる いわみざわ DX」といたしました。

また、この理念を実現するために、3 つの基本方針として、「デジタルでつなぐスマート社会の実現」、「持続可能なデジタル市役所の推進」、「地域社会と行政運営を支える体制・基盤の整備」を定めております。

あわせて、本計画（案）に対する市民の皆さまからのご意見を、7 月 21 日から始め、8 月 17 日まで募集しております。

これまでも、パブコメに際しては、広報やホームページのほか、市公式の LINE や X などの SNS も活用し、周知に努めてきたところですが、今回の計画案につきましては、これらに加え、現在こちらのディスプレイでご覧いただいておりますように、デジタルサイネージでの周知や、DX 推進計画という特性から、YouTube による配信も行っております。

また、提出方法につきましても、従来型の持参や郵便、メールに加え、既存の WEB

アンケートフォームを活用し、スマートフォンで簡易に提出できる仕組みも導入しております。

以上が、今後 5 年間の進むべき方向を示す、「基本計画（案）」の概要となります。

岩見沢市といたしましては、デジタルが特別なものではなく、「暮らしと産業」のあらゆる場面で役立つ「あたりまえの基盤」となる社会の実現を目指してまいりたいと考えております。

以上でございます。

<質疑応答>

(HBC 北海道放送)

DX 計画について、モニターのディスプレイに出ている画像はどこで見れるものなのでしょうか。

(企画財政部長)

市の公式 YouTube チャンネルで見ることができ、実際には音声が入っています。

(空知新聞社)

ホームページでも見ることができますか。

(企画財政部長)

市ホームページを通じて、YouTube にアクセスできます。

(空知新聞社)

動画でなく、ペーパーで確認する方法はありますか。

(企画財政部長)

今までも同じような意見募集を行っておりましたので、ホームページ上に同じ資料があります。今回追加して、こういった動画をご覧いただくこともできるということです。

(空知新聞社)

基本計画案が取りまとまって、それに対して、パブコメを今求めているということですが、並行して実施計画の策定をしているということで、実施計画は今年の春からということですか。

(市長)

今年の春から実施計画の策定に着手しています。

(空知新聞社)

基本計画はいつから取りかかったのですか。去年でしたか。

(市長)

令和 7 年からですね。昨年からです。

(空知新聞社)

基本計画を昨年から取りかかって、実施計画を今年の 4 月からされているということですか。

(市長)

正確には、昨年 8 月から行った全庁での課題調査とヒアリングを行ったことがスタートとなります。それから課題整理シートを取りまとめ、212 件出てきたという報告を受けていますが、11 月から今年 2 月にかけて、基本計画の素案、基本理念と基本方針と取り組み項目等の整理に入りました。6 月に素案の取りまとめを行い、7 月にパブリックコメントを行っております。

(空知新聞社)

パブリックコメントは来月の 17 日まで求めますけれども、求めたうえで、整理をして、随時いろんな形の媒体で公表されていると思うんですが、計画を決定するのはいつぐらいを予定されていますか。

(市長)

最終的には、令和 9 年の 3 月を目途にしております。

(企画財政部長)

基本計画部分だけをまず確定させまして、細かな各論の部分の実施計画というものを、さらに 1 年後に確定させるという形で予定しております。

(市長)

そうですね。2 段階ロケット方式と申しましょうか。

(空知新聞社)

実施計画の方も案が出来上がった時点で、同じようにパブコメを求めるという形になるんですか。それとも、実施計画は、パブコメしないのでしょうか。

(企画財政部長)

同じ流れで、ちょうど1年遅れというか、同じような月のスケジュールで、大体1年跨ぎで、同じような手順を取らせていただくことを現時点では想定しております。

来年の同じくらいの時期に、実施計画のパブコメをすることになるかと思います。

時期については、策定の進捗状況により、判断してまいります。

(空知新聞社)

基本的な質問かもしれないんですが、このDX推進計画は全国的に横一線で作っているのですか。それとも岩見沢独自で行っている形ですか。

(企画財政部長)

国におきましては、作ることを求められている計画の一つではあります。先行して計画を作っている自治体もございます。岩見沢市では今回のタイミングということもございます。

(空知新聞社)

岩見沢ならではのとか、岩見沢市のスマート技術をいろいろと先進的に取り組んでいると思うのですが、市長の肝いりの重点項目というか、そういった部分がありますか。

(市長)

やはり、「くらしと産業」だと思います。くらしの質を上げていくために、DXをどう活用するのかということと、人口も減少傾向ですし、職員も減少傾向となっておりますし、その中で仕事も増えてきますし、行政サービスを持続可能に提供するためにDXを上手く活用するというのが、ひとつの方向性になると思います。

また、対人業務ですとか、必要なところに職員のリソースを振り向けるという課題もありますし、デジタル市役所というふうに言ってますけれども、そういう行政事務自体のデジタル化を進めて、住民サービスに還元していくという考え方と、くらしと産業、そういった市民サービスの変革とか、フロントヤードというふうに私ども言っておりますけれども、基本的には、市民生活の質を向上させていくためにDXを活用していくというような方向性になるかと思います。それとあわせて地域経済の活性化というふうに考えております。

(空知新聞社)

やはり、ずっと基本にされている市民の生活と質の向上というところを DX も活用しながら向上させていくということなんですね。

(市長)

あくまでもツールですので、それ自体が目的になってるわけではなく、導入してどういったことを目指していくのかという点では、生活の質の向上と地域経済の活性化は両輪だと思っております。

2 北海道教育大学岩見沢校卒業生アート作品の展示について

(市長)

北海道教育大学岩見沢校卒業生のアート作品の展示についてご説明いたします。

今回展示する作品は、岩見沢校の教員や卒業生などの有志によるプロジェクトの一環として、卒業生の活動を支援する「アート作品レンタル・販売事業」を活用しております。

この事業は、岩見沢校出身の芸術家の作品を、市民や企業に有料で貸し出しするもので、今年 1 月に民間施設で初めてレンタル作品が展示されたところであり、市としても、このような取組みを応援することにより、公共施設にアート作品を設置することで、市民の方々が、教育大学が取り組んでいるアートをより身近に感じていただくことを目的としております。

作品は、7 月 24 日に「あそびの広場」へ設置したほか、8 月中に「市役所本庁舎」と「市民健康センター」に設置する予定としております。

岩見沢校の卒業生で、芸術家として市内で活動している津田光太郎さんをはじめ、6 名の作品、計 10 点を展示いたします。

展示期間は、3 施設とも来年の 2 月 26 日までを予定しております。

多くの方が訪れる施設に作品を展示することによって、気軽にアートに触れる機会となるとともに、卒業生の創作活動を知っていただき、今後の活動を支援するきっかけにつながればと考えております。

以上でございます。

<質疑応答>なし

3 その他記者から質問

＜質疑応答＞なし

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報室)